

縦貼りサイディング(3×10板)大壁仕様での下地に関する注意点

スタッコフレックスを使って外壁の仕上塗装を行うに当たり、施工前に下地について注意すべき点がありますので、下記の点をご確認下さい。

まず、事前に理解しておかなければならないことは、木造建築の場合、その工法に関わらず、躯体の伸縮や3×10板の伸縮、ズレ等が多かれ少なかれ必ず起こるということです。従って塗装後、主に垂直荷重を受け易い横目地部分等に表れるクラック、凹み、膨らみ線等が極力発生しないように、事前のリスク軽減対策を講じることをお勧め致します。(注:躯体、サイディング等の収縮の度合いは、建物ごとに異なり、予測不可能ですので、下記内容を実践しても100%防げるわけではありません。)

1.ビスの増し止め

一般的に、通気胴縁工法において、3×10板は釘で取り付けますが、釘は施工後、3×10板の伸縮や躯体伸縮等で緩みや浮きが生じ、固定力が弱まることがありますので、ビスを下地胴縁に増し止めすることをお勧め致します。

これを行うことで、多少なりとも3×10板の固定力が上がり、クラックの発生率を下げる効果があります。(3×10板1枚当たり9本程度が目安)

2.コーキングを打つ箇所

弊社の大壁仕様で目地処理を行う際、スタッコフレックス施工範囲内でコーキングを打つ箇所は、主に開口部周り、入隅縦目地、他の外壁仕上材とのジョイント部等です。横目地、縦目地、出隅縦目地(役物、トン付け共)にはコーキングを打たないで下さい。

これらの箇所は、ベースコート(専用樹脂モルタル)とメッシュテープで目地処理する為、ベースコートによるパテ処理の有効性を確保する塗り代部分が必要です。また、コーキングを打った場合、コーキングの痩せによる凹みラインが出たり、躯体の伸縮によるコーキングの飛び出しが、膨らみラインや不陸ラインとなって出たりする原因となる可能性があります。さらにベースコートは、高性能接着ポリマー配合の樹脂モルタルですので、付着強度は優れておりますが、コーキングの種類によっては、十分な付着強度が出ない可能性があります。

上記2点が、スタッコフレックスの塗装を始める前の段階で、注意して頂きたいポイントであり、極力、クラック・凹み・膨らみなどの発生を抑えるための有効な処置です。

<関連>大壁における横目地について

大壁仕様における横目地部分は、躯体や3×10板の伸縮に伴って、動きの出やすい部分です。スタッコフレックスは、優れた伸展性を持っていますので、それらの動きに追随します。その場合、優れた伸展性によって許容範囲内(塗厚の約70%まで)のクラック発生は防いでくれますが、追随した結果、目地ラインに沿って凹みや膨らみが出ることがあります。勿論、3×10板の反り、ズレ等による不陸の場合等いろいろな場合があります。テクスチャーによっては気になりませんが、吹付けやコテ塗り等の繊細なテクスチャー(鏡面仕上げ等)の場合、目立ってしまうことがあります。そういった場合は、横目地にあらかじめ幕板や化粧目地を検討して頂くことをお勧め致します。

株式会社スベック

STUC-O-FLEX®